

□ 保存環境

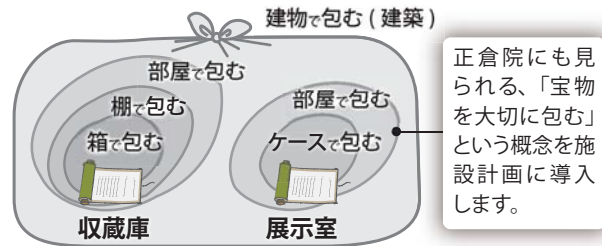
保存環境整備における考え方

◎ 基本的な考え方

資料の「保存」と「展示」という相反する行為の両立をはかるため、
日本に古来より伝わる“貴重品を「包む」”という考え方を施設計画全体にとり入れ、保存環境を整備します。

「包む」という考え方について

展示室と収蔵庫を文化財保存環境として一体的に考えます。
そして、文化財を段階的にかつ高気密・高断熱の建物全体で保護することで、最適な保存環境を保持します。
「包む」ことで、文化財の安全面、空調費用面への負担も大幅に低減できます。

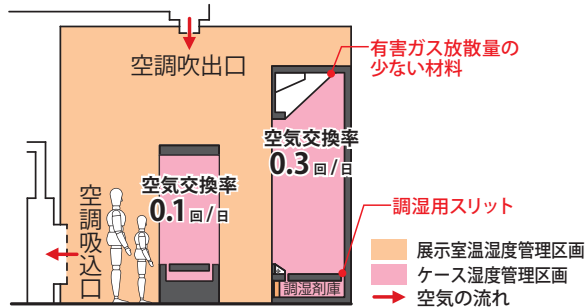


坂本龍馬記念館（展示）基本設計 概要版

展示・収蔵設備における留意点

◎ ケース

- ・ 貴重な資料を劣化させない高性能な展示ケースを採用します。
- ・ 有害ガス放散量の少ない建材を使用します。



◎ 収蔵庫設備

- ・ 壁面には、吸放湿性能を持つ素材を使用します。
- ・ 資料の収蔵スペースを確保するためにメザニン（中二階）を採用します。また、上層と下層の空気環境が一定となるように什器レイアウト、空調等の配置に配慮します。



◎ 照明

- ・ 資料の劣化要因となる、熱や近紫外線等の発生がより少ない照明器具を採用し、展示環境の安定に配慮します。

□ 展示関連の諸室の概要

◎ 新館

室名	面積	主要用途
2F 常設展示室	337 m ²	実物資料等の展示
企画展示室	94 m ²	借受資料等の展示
ジョン万次郎展示室	27 m ²	実物資料等の展示
収蔵庫	110 m ² (メザニン部 51 m ²)	実物資料等の収蔵
1F ガイダンスシアター	34 m ²	映像展示

◎ 既存館

室名	面積	主要用途
2F 展示室	620 m ²	映像や体験型の展示
B1F 展示室	170 m ²	写真等の展示



□ 展示の概要

新館と既存館の位置づけ

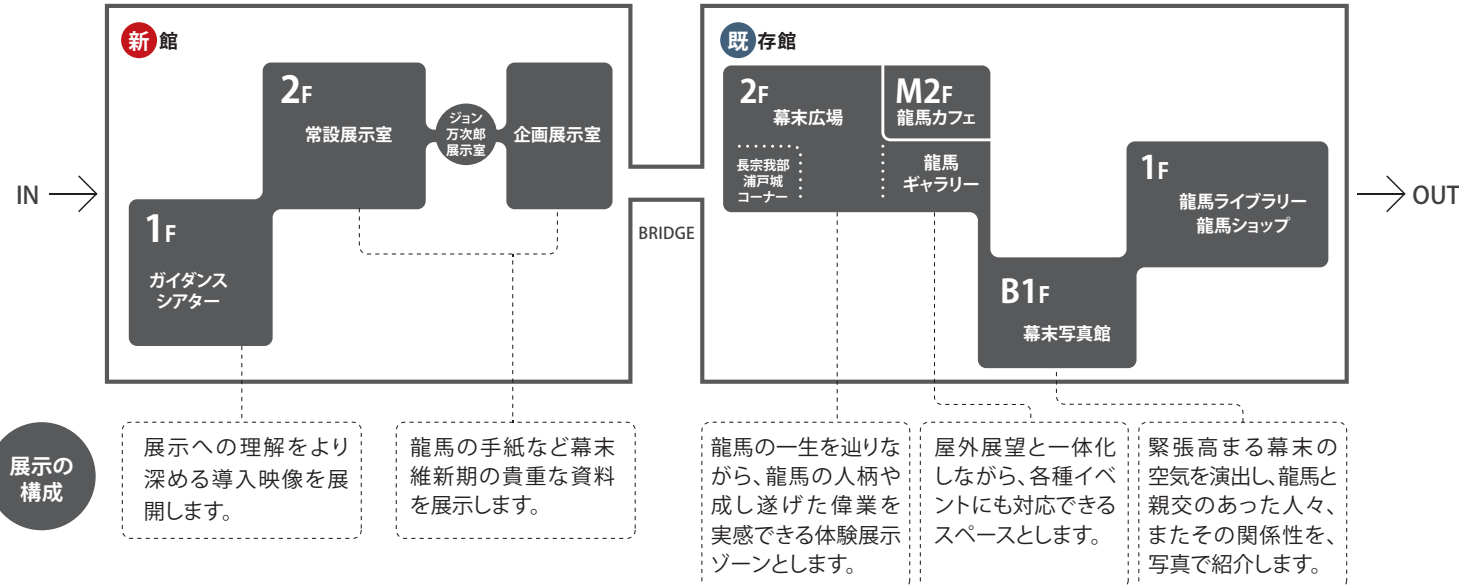
新館と既存館の位置づけを明確にします

新館
龍馬と“心通わす”
実物資料を通して龍馬を「深く伝える」



既存館
龍馬と“遊ぶ”
親しみやすい演出、体験を通して龍馬を「広く伝える」

◎ 動線と展示の構成



新館の展示の構成

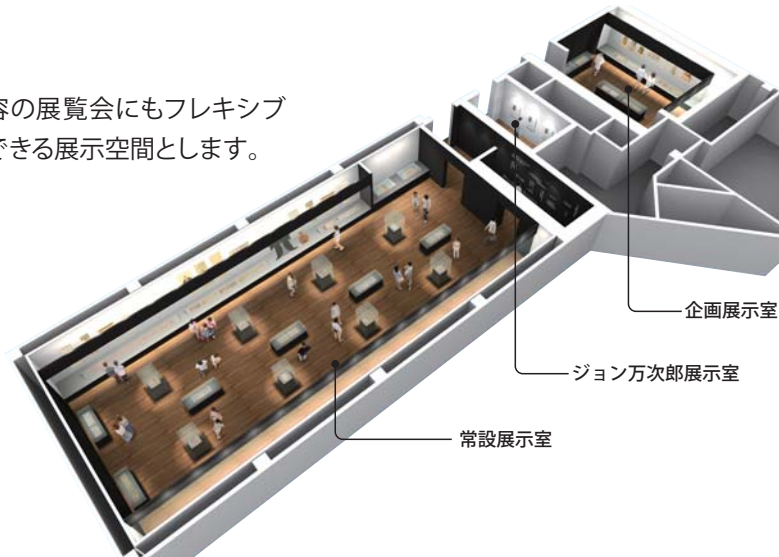
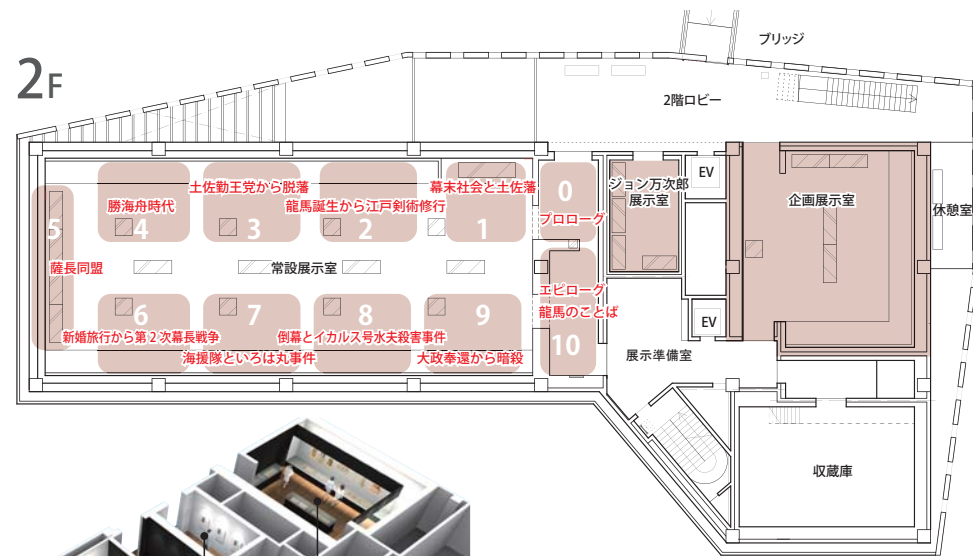
◎ 展示の主旨と概要

常設展示室

- 龍馬の生涯を時系列に沿って紹介し、貴重な実物資料を通して多面的に龍馬を知り、理解を深める展示とします。
- 書簡等に残る「龍馬のこぼれ」を印象的に紹介します。
- 多言語に対応したシステムを導入します。

企画展示室

- 様々な内容の展覧会にもフレキシブルに対応できる展示空間とします。



館所蔵資料一例

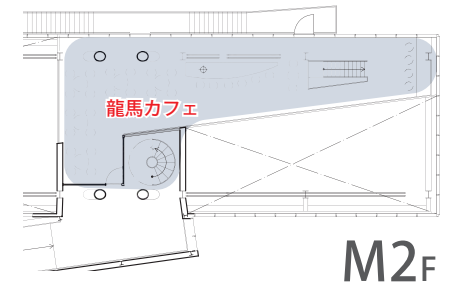


既存館の展示の構成

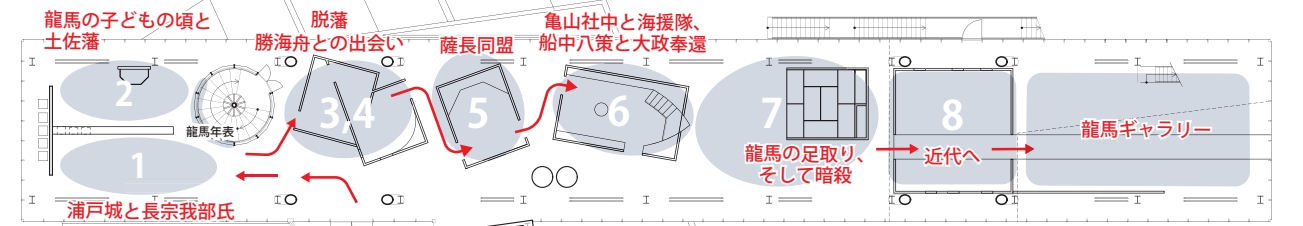
◎ 展示の主旨と概要

- 「龍馬は何をなした人物か」をわかりやすく伝えます。
- 龍馬の一生を辿りながら、龍馬の人柄、成し遂げた偉業を実感する展示を展開します。

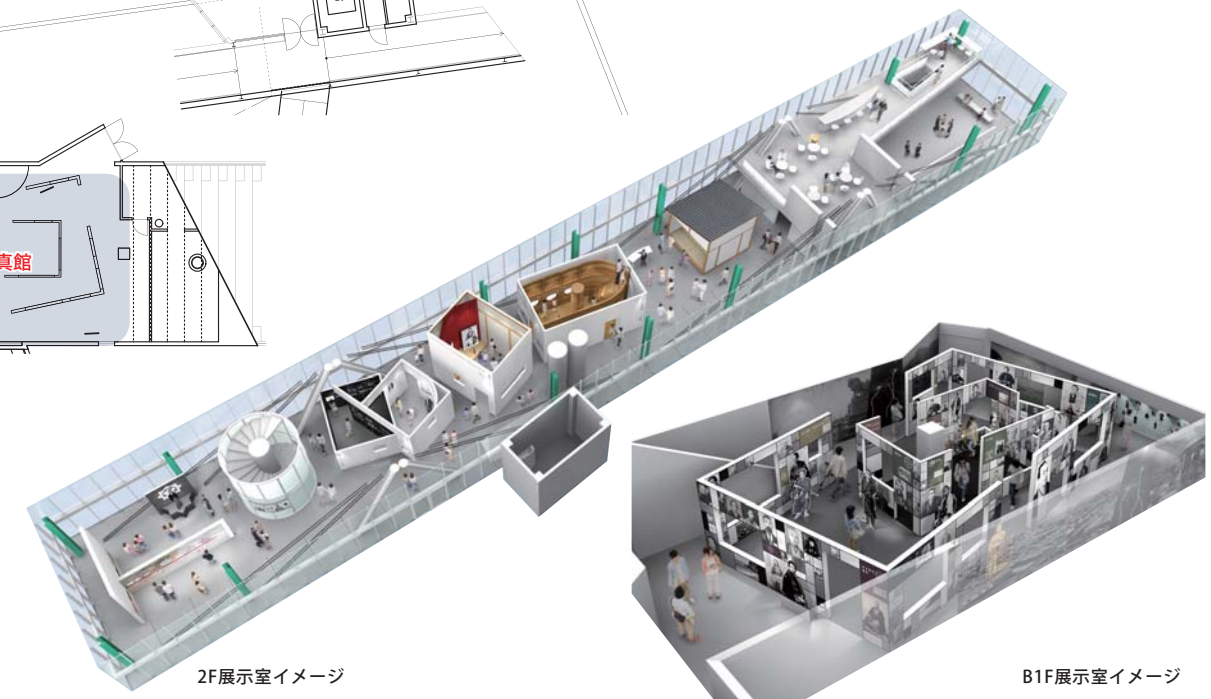
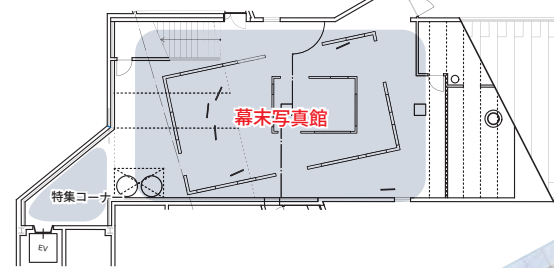
- 誰もが楽しめる体験アイテムやビジュアルを交えた展示により、龍馬への親近感を醸成します。



2F 幕末広場



B1F 幕末写真館



◎ 各展示コーナーのイメージ

- 1 浦戸城と長宗我部氏**
館の立地場所である浦戸城と長宗我部氏の歴史を紹介します。
- 2 龍馬の子どもの頃と土佐藩**
龍馬の子どもの頃のエピソードと、当時の時代背景を紹介します。
- 3 脱藩**
新天地へと踏み出す龍馬の心理を演出します。
- 4 勝海舟との出会い**
龍馬の人生を決定づける勝海舟との出会いを印象深く紹介します。
- 5 薩長同盟**
薩長同盟締結の様子を、西郷と木戸の対話による臨場感あふれる演出で紹介いたします。
- 6 龍馬の子どもの頃と土佐藩**
龍馬の偉業を船を模した空間で紹介いたします。
- 7 龍馬の足取り、そして暗殺**
龍馬の生涯の足取りとともに、最期の地・近江屋を紹介します。近江屋の再現セットはイベント開催にも使用します。
- 8 近代へ**
近代日本の出発点となった明治維新がもたらした変化を演出します。